

世田谷区立赤堤小学校
校長 児玉 信郎 様

令和7年度 赤堤小学校 学校関係者評価報告書

令和8年3月4日
世田谷区立赤堤小学校
学校関係者評価委員会
委員長 角田 保

赤堤小学校5・6年生児童、全児童保護者、及び地域の皆様からのアンケート結果をもとに学校関係者評価委員会にて検討を重ねた結果、以下の様に報告いたします。

目次

1	赤堤小学校関係者及び地域の皆様へ	1
2	調査の概要	2
3	各質問項目の結果とその評価	3
4	総評1(アンケートの分析と提言)	10
5	総評2(保護者自由記述・教員ヒアリング・校長ヒアリングを中心に)	12

1 赤堤小学校関係者及び地域の皆様へ

赤堤小学校5・6年生児童、全児童保護者、及び地域の皆様には、お忙しい中「学校評価アンケート」にご協力いただき、ありがとうございました。今年度もそのアンケートに基づいて、本報告書を校長先生に提出することができました。深く感謝申し上げます。

本年度からは全て、小学校の独自の設問となりました。昨年度までの質問のほとんどは、世田谷区から指定されたものでした。今後少しずつ、独自性を出していく予定です。

本報告書が、赤堤小学校での教育環境がさらに充実するための一助となることを願っています。

2 調査の概要

1. 実施日 (Web アンケート受付期間)

児童・保護者・地域とも 令和7年11月7日～11月20日

2. 調査票回収状況

		依頼数	回答数	回答率 (%)
児童	5年	90	83	92.2
	6年	94	82	87.2
児童計		184		
保護者	1年	73	38	52.1
	2年	85	54	63.5
	3年	80	39	49.8
	4年	85	56	65.9
	5年	90	49	54.4
	6年	94	58	61.7
保護者計		507	294	58.0
地域		53	48	90.1

(注) 児童については、追加の質問を12月20日～24日に行った。

3. 結果表の記号の説明

ABCDEの順に、「とても思う」「思う」「あまり思わない」「思わない」「わからない」とし、結果表の数字には $(A+B)/(A+B+C+D)$ を%表記して載せています。その他の記号については以下です。

記号	概要	説明
◎	満足度が目標に達している	$(A+B)/(A+B+C+D)$ が80%以上の項目
○	満足度が目標までもう少し	上記比率が60%以上の項目
△	満足度がやや低い	上記比率が60%未満の項目
▼	「わからない」が多い項目	E/回答数 が20%以上
na	設問無し	

3 各質問項目の結果とその評価

3.1 学習指導について

		(%)	R7	R6	R5
児童	(1) 学ぶことが楽しい	82.3	◎	na	na
	(2) 先生は、課題（めあて）について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。	96.3	◎	◎	◎
	(3) 先生は黒板の書き方やプリントなどを工夫している。	90.6	◎	◎	◎
	(4) 授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。	96.3	◎	◎	◎
	(5) 先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。	96.2	◎	◎	◎
	(6) 授業で自分の考えをすすんで話したり、書いたりしている。	68.5	○	○	◎
	(7) 本を読むことが好きである。	70.3	○	○	○
保護者	(1) 本校は、子どもが考えることや、課題を解決することを大切にした授業を行っている。	89.7	◎	◎	◎
	(2) 本校は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している。	82.5	◎	◎	○
	(3) 本校は、子どもが考えたことを話しあったり発表し合ったりする機会がある。	90.6	◎	◎	◎
	(4) 本校は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。	89.4	◎	◎	◎
	(5) 子どもたちは、授業で自分の考えをすすんで話したり、書いたりしている。	84.0	◎	◎	◎
	(6) 子どもたちは、本を読むことが好きである。	69.7	○	○	○

- 児童・保護者ともに、全項目について、全体的に高い評価を維持しています。
- 児童(6)(7)については、全体の数値に比べて、例年低めの数値となっております。発言や読書は無理強いするものではありませんし、個人差が大きいものと思われます。
- 引き続き、学校での学習に対して、子ども達が肯定的な姿勢で臨んでいけることを期待しています。

3.2 生活指導について

	(%)	R7	R6	R5
児童	(1) 私は、学校のきまりを守って行動している。	90.6	◎	◎ ◎
	(2) 学校のきまりを守らない児童に先生は注意している。	93.5	◎	◎ ◎
	(3) 先生に注意されたことは、理解できる。	92.0	◎	◎ ◎
	(4) 友達や先生・主事さんにあいさつしている。	92.7	◎	◎ ◎
保護者	(1) 本校は、学校での過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている。	88.3	◎	◎ ◎
	(2) 本校は、教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している。	90.3	◎	◎ ◎
	(3) 子どもたちは、友達や職員にあいさつをしている。	92.9	◎	◎ ◎
地域	(1) 通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている。	82.6	◎	◎ ◎

- 児童は全項目において前年度同様高い水準です。ルールを理解し守るという意識が高いと言えます。
- 保護者からも概ね高評価を得ています。
- 地域の方々からは、児童の交通ルールに関する評価は一定程度得られているものの、昨年度よりはやや低下しています(前年度 96.7%)。安心安全な登下校を実現するために、今後も継続的に交通ルールへの理解を深める機会を設け、保護者、学校、地域の連携を一層充実させていくことが望まれます。

3.3 学校行事について

	(%)	R7	R6	R5
児童	(1) 運動会は、楽しい。	87.8	◎	na na
	(2) 運動会は、達成感がある。	86.5	◎	na na
	(3) 学習発表会は、楽しい。	84.1	◎	na na
	(4) 学習発表会は達成感がある。	82.8	◎	na na
	(5) 先生は、児童の意欲を大切にしている。	90.8	◎	na na
保護者	(1) 運動会は、子どもにとって楽しい。	95.9	◎	na na
	(2) 運動会は、子どもにとって達成感がある。	95.9	◎	na na
	(3) 学習発表会は、子どもにとって楽しい。	91.0	◎	na na
	(4) 学習発表会は、子どもにとって達成感がある。	92.7	◎	na na
	(5) 本校は、子どもの意欲を大切にしている。	92.9	◎	◎ ◎
地域	(1) 学校行事の内容は充実している。	95.7	◎	◎ ◎
	(2) 事前の準備や当日の案内などで地域への配慮がある。	95.8	◎	○ ◎

- 児童の評価が(5)を除いて昨年度より下回りました。子ども達が達成感をより得られるように、工夫をしていく必要があります。
- 地域の評価が大きく回復しました。今後も地域との連携を大切にしていきたいところです。

3.4 キャリア教育について

		(%)	R7	R6	R5
児童	(1) 自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある。	80.0	◎	○	○
	(2) 目標をもち、その実現に向けて努力している。	88.1	◎	◎	◎
	(3) 自分にはよいところがある。	89.5	◎	◎	◎
	(4) 自分のことがすきである。	74.5	○	○	○
	(5) 自分の将来に向けて、勉強や運動を一生懸命取り組んでいる。	88.5		na	na
	(6) 区立中学校に関する情報が提供されている。	67.8	△▼	△▼	○▼
保護者	(1) 本校の教員は、子どもに目標をもたせ、その実現のために支援している。	75.0	○	◎	◎
	(2) 本校では、子どもの生き方や将来のことについて考える授業がある。	67.5	○	○▼	○▼
	(3) 子どもは、自己肯定感をもっている。	84.8	◎	◎	◎
	(4) 子どもたちは、自分の将来に向けて、勉強や運動を一生懸命取り組んでいる。	85.2	◎	na	na

- 「自分にはよいところがある」という自己肯定感は非常に高い水準です。一方で、区立中学校に関する情報提供については、児童・保護者ともに他項目より低いです。中高一貫校や私立中進学者が多い地域特性も踏まえつつ、進路に対する不安を解消する情報発信の工夫が必要でしょう。

3.5 教職員について

		(%)	R7	R6	R5
児童	(1) 先生たちは、ていねいに指導してくれる。	90.1	◎	◎	◎
	(2) 先生たちに相談できる。	78.0	○	○	◎
保護者	(1) 本校は、丁寧な指導している。	89.5	◎	◎	◎
	(2) 本校は、子どものことを相談しやすい。	89.1	◎	◎	◎

- 児童の評価、保護者の評価ともに昨年度より下回っています。児童、保護者、教職員が日々の学校生活を通して、相談しやすい関係性を構築していく必要があると思います。

3.6 全般について

	(%)	R7	R6	R5
児童	(1) 学校生活は楽しい。	86.5	◎	◎ ◎
	(2) 自分やクラスが立てためあての達成に向けて協力している。	88.4	◎	◎ ◎
	(3) 友達を大切にしている。	97.2	◎	◎ ◎
	(4) 友だちといっしょに運動することは楽しい。	91.7	◎	◎ ◎
	(5) 地域の行事に参加したいと思う。	62.1	○	△ ○
保護者	(1) 本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。	92.0	◎	◎ ◎
	(2) 子どもは、家庭で自主的に学習をしている。	65.1	○	○ ○
	(3) 本校の教育活動に満足している。	85.6	◎	◎ ◎
	(4) 子どもは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。	82.1	◎	na na
	(5) 子どもたちには、相手を思いやる心が育っている。	93.7	◎	◎ ◎
	(6) 子どもたちは、友達を大切にしている。	96.2	◎	◎ ◎
	(7) 子どもたちは、友だちといっしょに楽しく運動している。	94.4	◎	◎ ◎

- 児童の (1) は、高い評価を維持しているものの昨年度よりも数値が下がっています。一方、関連する保護者の (1) は、昨年度と同様の高い評価を得ています。児童については、学年の発達段階に伴う関係づくりの難しさや、時期的な不安定さなどが回答に反映された可能性があります。保護者については、他のアンケート結果を鑑みると、学校の情報提供が充実していることや、支援体制への安心感が評価に反映されていると考えられます。
- 児童の (2) は、高い評価を得ています。学級内外で助け合いながら、目標に向かう姿が定着しつつあるようです。先生方とのヒアリングでは、トラブルが起きやすい場面において「折り合いをつける」「ルールを工夫する」などの指導を行っているとの話でした。今後も対話を重視した指導や、担任だけでなく複数の教職員で情報共有しながら支える体制を生かして頂きたいと考えます。
- 児童の (3) は、昨年度と同様に非常に高い評価を維持しています。本校において友達を思いやり、互いを認め合う関係づくりができていけると言えるでしょう。また関連する保護者の (5) 及び (6) は依然として高い評価を保っています。本校の指導の成果が表れている結果でしょう。今後も学年や学級を越えた交流の場を大切にしつつ、インクルーシブの観点から「その子に必要な配慮」を児童や保護者に適切に周知して、誰もが安心して過ごせる学校づくりを進めて頂けることを望みます (5 節参照)。
- 児童の (4) は高い評価を維持しており、友達と関わりながら運動に親しむ文化が根付いていると言えるでしょう。また関連する保護者の (7) も高い評価を維持しています。
- 児童の (5) は昨年度と比べて若干改善しているものの、低い評価となっています。現在地域の行事が少なくなっており、また参加している行事が地域の行事なのか学校の行事なのか意識することも少ないと思われるので、劇的な改善は難しいと思われます。
- 保護者の (2) は、引き続き低い評価となっています。この原因の一つとして、タブレットを活用した学習について、保護者にとって「学習に取り組んでいるのか、動画視聴やゲームなどの利用になっているのか分かりにくい」という実態が関係していると考えられます。学校としてもタブレットでの学習内容が家庭でも把握しやすいよう、今まで以上にタブレットを使用した学習内容の見える化を工夫する必要

があるのかも知れません。また、ゲーム機などの娯楽は以前から家庭にある一方で、タブレットは使い方を工夫すれば、理解の定着や反復学習など学習効率の向上につながります。学校と家庭とが協力してより効果的な活用につながる指導を進めて頂けたらと考えます。また宿題については、先生とのヒアリングにおいて一定期間で取り組める形や選択肢を工夫するなどを意識しているとの話がありました(5節参照)。今後も継続的な家庭学習の定着のための指導をよろしく願います。

- 保護者の(3)は、昨年度から低下したものの高い評価を得ており、教育活動全体への信頼が伺えます。現在実施している授業交換や教科担任制、対話を重視した授業づくりや学習の流れの中で無理なく取り組める行事運営などを推し進め、さらなる教育活動の充実に努めて頂けたらと思います。
- 保護者の(4)は、今年度新たに設置された項目であり、高い評価を得ています。一方で「体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。」のうち、「体力の向上」に関連する項目の(7)が94.4%であることを考えると、「健康な生活」の点で少し評価が低いのかも知れません。そのため、今後は運動習慣の充実に加え、睡眠・食事・生活リズムといった「健康な生活」を支える要素にも着目し、学校と家庭とが連携しながら継続的に改善を図っていくことが必要であると考えます。

3.7 学校からの情報提供について

	(%)	R7	R6	R5	
保護者	(1) 本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している。	93.2	◎	◎	◎
	(2) 「学び舎」の区立(幼稚園)中学校について情報が提供されている。	69.5	○▼	○▼	○
	(3) 本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる。	95.5	◎	◎	◎
	(4) 本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している。	92.2	◎	◎	◎
地域	(1) 学校からのお知らせ(学校だより)などにより、学校の様子が分かる。	95.8	◎	◎	◎
	(2) 学校公開や道徳授業地区講座などで学校の様子が分かる。	86.4	◎	○	◎▼
	(3) 学校のホームページに、学校からのお知らせや学校生活の様子が分かる情報が掲載されている。	78.3	○	○	◎

- 全項目について、高い水準で一定の評価は得ています。
- 保護者(2)の学び舎の中学校の質問については、本年度も低い数値です。コロナ禍で中断されたものを含め、今後の時代やニーズに合った情報が適切なタイミングかつ持続可能な範囲で提供されていくことを望みます。

3.8 学校運営について

	(%)	R7	R6	R5
保護者	(1) 本校は、保護者に学校の重点目標を伝えている。	92.1	◎	◎ ◎
	(2) 校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。	92.2	◎	◎ ◎
	(3) 学校は、働き方改革が進んでいる。	91.4	◎	na na
地域	(1) 学校の重点目標が明確である。	91.3	◎	◎ ◎
	(2) 地域の意見に対して、学校はていねいに説明・対応している。	85.7	◎	○▼ ◎

- 昨年に引き続き、高い評価となっています。
- 子ども達の安心と安全な学校生活には、学校・地域・保護者の連携が欠かせません。今後も子ども達のために協力していただきたいと思います。

3.9 家庭と学校の連携について

	(%)	R7	R6	R5
保護者	(1) 私は、学校公開にすすんで参加している。	92.5	◎	◎ ◎
	(2) 私は、学校行事、PTA や地域主催の行事にすすんで参加している。	71.3	○	○ ○
	(3) 私は、今年度の学校重点目標を理解している。	74.3	○	○ ○

- (1)(2) は前年度に比べ若干高い数字となりました。
- 今年度から教員の働き方改革の一環で土曜授業が減少しましたが、保護者も理解を示した上で積極的に学校行事に参加している様子が伺えます。
- 学校重点目標については、従来の方法に加え様々なアプローチを通じてより理解が広がっていくことを期待します。

3.10 地域との連携について

	(%)	R7	R6	R5
保護者	(1) 本校は、地域の人材や施設を教育活動に活かしている。	91.5	◎	◎ ◎
	(2) 本校は、地域の活動などに協力的である。	94.7	◎	◎ ◎
	(3) 本校は、地域に情報を提供している。	93.4	◎	◎▼ ◎
	(4) 私は、地域の行事に協力したり、参加したりしている。	66.7	○	na na
地域	(1) 地域の人や施設を教育活動に活かしている。	91.3	◎	◎ ◎
	(2) 学校協議会や合同協議会が役割を果たしている。	79.2	○	△ ○
	(3) 学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている。	76.2	○	○ ◎▼

- 保護者の地域行事への参加率は低く、伸び代があります。学校の目指す姿をより自分の事として捉えてもらうための啓発が、今後の課題と言えるでしょう。

3.11 学校の安全性について

	(%)	R7	R6	R5
保護者	(1) 学校は、安全な学校づくりを進めている。	93.2	◎	◎ ◎
	(2) 本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている。	98.6	◎	◎ ◎
	(3) 本校は、自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している。	95.4	◎	◎ ◎
地域	(1) 学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。	95.8	◎	◎ ◎
	(2) 本校は、安全性を高めようと、積極的に地域と協力している。	87.5	◎	◎ ◎

- 保護者の(1)～(3)は、例年通り高い評価を得ています。教職員の皆様による日頃の安全指導、避難訓練、セーフティ教室などの継続的な取り組みが高い評価に繋がっているものと考えられます。
- 地域の(1)は、例年通り高い評価を得ており、また地域の(2)は、他の項目と比べてやや低いものの高い評価が維持されています。
- 現在、地域の方による登校下校時の見守り活動などが行われている一方で、学校の安全性向上に向けた取り組みを「地域と協働して実施している」と実感しにくい面があることが伺われます。今後、地域の方にお願いただける取り組みや学校単独では実施が難しく協力を得たい取り組みがある場合には、学校協議会などを通じて地域に働きかけ、役割の分担や連携の見える化を進めて頂きたいと思います。
- 今年の4月の道路交通法改正により、16歳以上の自転車運転者に交通反則通告制度が導入され、一時不停止や傘差し運転などの比較的軽微な違反にも反則金が科されるようになります。また、過去には小学生の自転車事故に関連して高額な賠償(一例として約9521万円)が命じられた事例もあります。児童本人のみならず保護者にとっても関わりの深いテーマですから、児童に対する自転車の安全指導と家庭への注意喚起を一層徹底されることを望みます。

4 総評 1 (アンケートの分析と提言)

4.1 アンケート全体から

本年度の調査結果から、赤堤小学校は「児童の自己肯定感を育み、安心・安全で開かれた学校運営」を高いレベルで実践していると評価できるのではないのでしょうか。

特筆すべきは、児童の多くが「学校が楽しい」「友達を大切にしている」と感じている点です。これは、教職員が児童一人ひとりの意欲を尊重し、対話のある授業づくりに注力した成果と言えます。また、地域・保護者との信頼関係も強固であり、学校からの積極的な情報発信が功を奏しています。

今後の課題については、以下の3点に集約しました。

1. 「相談しやすさ」の向上：児童がより気軽に心の内を話せる環境の整備。
2. 家庭学習との接続：学校での学習意欲を、家庭での「自立した学習習慣」へ繋げるための働きかけ。
3. 進路情報の充実：中学校生活へのスムーズな移行を支えるための、より具体的な情報提供の検討。

学校・家庭・地域の三者が、それぞれの役割を果たしながら協力し合うことで、赤堤小学校の教育環境がさらに発展することを期待します。

4.2 課題項目に対する具体的な改善策のアイデア

満足度が目標(80%)に届かなかった項目や、課題が見える数値に焦点を当て、具体的な改善策のアイデアを提案します。

4.2.1 キャリア教育：中学校進学に関する情報提供

現状数値：児童 67.8%・保護者 67.5%(いずれも満足度がやや低い「Δ」)

- 「卒業生による中学校生活プレゼン」の実施：
近隣の中学校に進学した卒業生を招き、5・6年生に向けて制服、部活動、定期テストの様子などを直接話してもらう機会を設ける。
- 進路マップの作成・配布：
区立中学校だけでなく、地域特性に合わせた多様な進路選択のスケジュールや「学び舎」としての連携内容を一覧化したリーフレットを配布する。
- 中学校体験授業のオンライン化：
部活動や授業の様子を動画で視聴できるコンテンツを、保護者専用サイトや限定公開のYouTubeなどで提供する。

4.2.2 教職員：児童の「相談しやすさ」

現状数値： 児童 78.0%(目標の 80% まであと一歩)

- 「1 分間対話」のルーチン化：
朝の会や休み時間に、先生が全児童と短く言葉を交わす時間を意識的に作り、「いつでも話しかけて良い」という心理的安全性を高める。
- デジタル相談ポストの活用：
配布されているタブレットを活用し、対面では伝えにくい悩みや不安を匿名または記名で送れるアンケートフォームを常設する(完全に匿名であることがポイント)。
- スクールカウンセラーの身近な広報：
カウンセラーの紹介ポスターを教室に掲示したり、学校だよりで「こんな時に相談してね」という具体例を定期的に発信する。

4.2.3 全般：家庭での自主学習習慣

現状数値： 保護者 65.1%(目標までもう少し)

- 「家庭学習の見える化」プロジェクト：
学年ごとに、宿題以外に取り組める「自主学習ノート」の好事例を廊下や HP で紹介し、子どもたちの意欲を刺激する。
- 家庭向け「学習サポートガイド」の共有：
保護者が「教える」のではなく「見守る・促す」ための声かけのコツや、学年に応じた学習時間の目安を具体的に提示する(強制ではない形で保護者の水準向上の機会をつくる)。
- 学習アプリの活用状況の共有：
タブレットでの学習履歴を保護者も確認しやすくなるよう、操作方法や進捗の確認方法を改めて周知する。

4.2.4 地域連携：学校運営組織の認知向上

現状数値： 地域(学校協議会に関する問)79.2%(学校運営委員会に関する問)76.2%

- 「見える化」報告の発行：
会議の議事録だけでなく、「地域や委員の意見によって学校運営がこう変わった」という具体的な成果を写真付きで広報する(末端まで温度感を下げない共有を目指す)。
- 地域参加型イベントのデジタル発信：
学校ホームページに地域専用の特設ページを設け、行事の様子だけでなく、ボランティア募集や施設開放の状況をタイムリーに更新する。
- 「学校の応援団」の募集強化：
学校運営委員会が窓口となり、地域の人材(特技や職業経験を持つ人)を授業のゲスト講師としてより積極的にマッチングする仕組みを整える。

5 総評 2(保護者自由記述・教員ヒアリング・校長ヒアリングを中心に)

本委員会では、各種アンケート結果の解釈のみでなく、教員ヒアリング(1月上旬)と校長ヒアリング(2月上旬)を行っています。本節では、これらを元にした総評を行います。

以下は、全世界に公表しても問題のない話題について記述しています。実際にはより多くの話題について情報交換し、学校の対応を聞いたり対応の助言をしています。

まず本年度も、各学年での子どもの種々の問題については、クラスの枠を超えてそれぞれの学年の先生方で情報共有がなされているようです。同様に、子どもとの対応が不適切であった先生には、校長・副校長などがきちんと指摘して、該当の先生の対応も改善しているとのこと。このように情報共有と指導技術の錬磨が、本年度もなされていることは、非常に喜ばしいことです。

宿題の量については、多くしてほしい・少なくしてほしいなど保護者の中でも意見が分かれています。このあたりは学校側も迷いがあるように見受けられましたが、少なくとも0にすることはしないようです。

先生方のマンパワーの不足を心配している保護者も多くいました。その対策は、追加の先生の要請を区に行ったことと、次年度以降では4年以上で専科授業(教科担任制)を増加することとのことです。後者については、例えば1学年3クラスであれば、3人の担任をそれぞれA科目の先生・B科目の先生・C科目の先生と決めます。その3科目については、それぞれの先生が全てのクラスを教えることとなります。学級担任制に比べて単純計算で授業準備が1/3となり、先生方の負担が減ることとなります。

タブレットについては、不要という保護者も見られますが、日本社会自体が紙から電子ベースとなりつつある昨今では、それに抗うのはまず無理でしょう。紙で学ぶことと電子物で学ぶことを、上手く両立できるような授業が望まれます。このあたりはまだノウハウができていないでしょうから、さらなる授業研究が必要となることでしょう。実際教員ヒアリングでは、書くことに抵抗感がある子どもが増えているということでした。さらに、タブレットの影響で本離れが起こっているのではないかとヒアリングで聞きましたが、それはあまりなさそうとのことでした。ただし5~6年生は、授業時間として図書の時間をとるのが難しくなっているとのこと。また校長ヒアリングの際に、AIに関するレポートについて意見交換しました。作文やレポートをAIに書かせる子どもが多くなるのが予想されるので、体験したことを書くような課題を出すことを助言しました。AIは体験を書くことはできないためです。

子どもの運動については、体育以外に「わくスポ」があり、子どもにも好評とのこと。子どもの運動能力が落ちていると言われる昨今で、体育以外で体を動かす機会があるのはよいことです。

なお、毎年のことではありますが、このように自由記述でいただいた意見などを参考にして、教員ヒアリング・校長ヒアリングも行っています。保護者の皆様におかれましては、次年度も、アンケートとともに、自由記述欄での忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

以上